



新時代に対応した学びの継続のための学習環境の実現



長野県教育委員会

めざす姿

・学校の臨時休業等の緊急時においても教員と児童生徒のやりとりが円滑にできる環境設定

・1人1台端末を“文具”と同様に活用し、主体的に学習をデザインして自律的に学ぶ児童生徒

- ・個に応じた対応：児童生徒に応じた学習内容やペースでの学び
- ・不登校生の学び：不登校生のオンライン授業への参加、学びの保証
- ・保護者の啓蒙：子どもの学ぶ姿を保護者が見て知る機会の増加
- ・授業の意識改革：対面で指導できる教室での授業のあり方の見直し



- 1人1台端末整備
Wi-Fi ルーター貸出

ICT 環境整備

- GIGA スクール構想前倒し
- ・R2 から R5 まで順次整備予定であった
1人1台端末を R2 中に小 1~中 3
まで整備

<市町村の導入予定>

- ① 端末整備を前倒す設置者
→ 96.3% (79/82)

※ 3 町村は独自整備

- ② 県と市町村による共同調達に
参加する市町村数
→ 30 (約 70,000 台)

【令和2年5月22日現在】

※素早い導入に向けた台数確保を国に
要望

- Wi-Fi ルーター貸出

・Wi-Fi 環境のない児童生徒に Wi-Fi
ルーターの貸し出し

<市町村の導入予定状況>

導入予定 → 53

検討中 → 29

【令和2年5月22日現在】

※通信機器整備費のみでなく、通信費
も支援するよう国に要望



- ICT を駆使し、指導できる技能

ICT スキル向上

- 教員の ICT 習熟度レベルの向上

A	学習プリントをホームページやメールで配信、Zoom 等でつながる
B	家庭学習用の動画を撮影し、インターネット上に掲載
C	Zoom 等で学習内容を解説、質疑応答
D	インターネット上にデータを載せてアクセスできるようにし、即時双方向型の学習スタイルを提供

- 支援の内容

・教員の ICT 習熟レベルの確認
・市町村教育委員会と連携した出前講座（研修）の実施

※知事部局との連携により、指導主事と大学生が共に学校を訪問して研修を実施

現状と課題

環境整備	教員のスキル
<ul style="list-style-type: none"> ・ 5.4 人に 1 台の端末整備状況(30 年度末) ・ 市町村によって整備状況に差がある ・ 家庭によってインターネット環境が異なる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員による ICT スキルに差がある ・ オンライン学習の経験が不足している ・ リーダーとなる教員の育成が必要である

注) 表記アプリはイメージを持って頂くためのものであり、県教育委員会が活用を推奨するものではありません

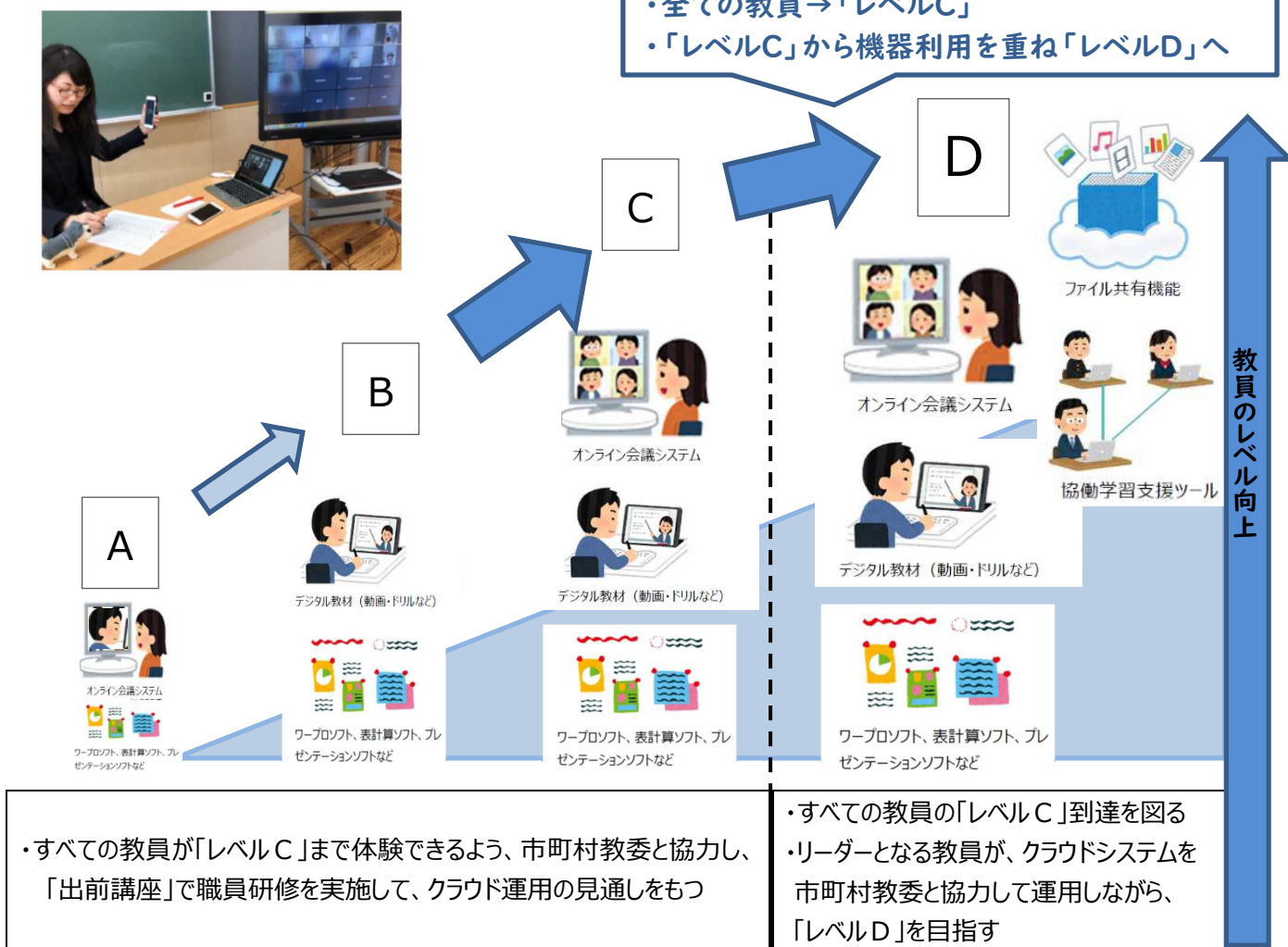
【ICT 習熟度の向上】

臨時休業中の学びを支援するための教員のスキルが学習のオンライン化に十分対応できていない。今後は、市町村教育委員会と連携し、端末等の整備とともに下記「レベルC」までの研修を 8 月末まで行い、教員の ICT 習熟度「レベルD」を目指し、高めていく。

教員の ICT 習熟度レベル	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリント等をメールや学校のホームページを介して配信できる。 ・Zoom 等を使って、パソコン等の画面越しに児童生徒の健康観察等ができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を進めるときに参考となる授業動画を撮影することができる。 ・撮影した授業動画を YouTube 等に載せ、児童生徒に配信できる。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoom 等を使い、家庭にいる児童生徒に学習内容の解説をしたり、質問に答えたりすることができる。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上に学習プリント等を保存し、児童生徒がいつでもどこからでもアクセスして学び、結果を添削してフィードバックし解説することができる。 ・インターネット上で、児童生徒がかかわり合いながら協働して課題の解決を図る学びを即時双方向的に行うことができる。

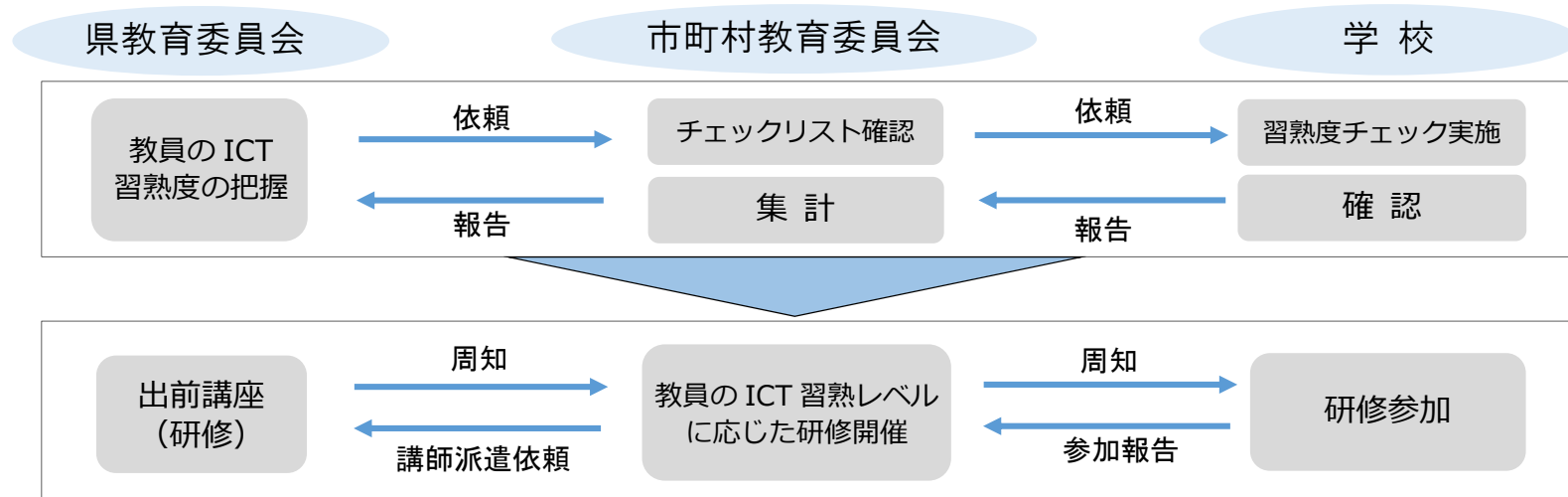
注) 表記アプリはイメージを持って頂くためのものであり、県教育委員会が活用を推奨するものではありません

【レベル向上のイメージと支援スケジュール】



教員の ICT 習熟度「レベルD」実現に向けたロードマップ

<教員の ICT 習熟度の把握による研修の実施>



<ロードマップ>

	5月	6月	7月～8月末	9月以降
県	市町村・学校へ研修の周知	指導主事等の派遣と市町村・学校のフォロー		参考となる事例を市町村へ提供
市町村	【研修内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・ A 学習教材のデジタル化・オンライン会議システムの体験 ・ B 授業動画作成 ・ C オンライン会議システムを活用した学びの支援 ・ (D A～Cの総合的活用) 			【研修内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・ A～Cの確認 ・ D 教育クラウドを活用した課題の配付 オンラインで協働学習や話し合いを取り入れた学習
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ チェックリストによる習熟度の確認 ・ 研修企画 	校内研修実施		<ul style="list-style-type: none"> ○ 端末を使って児童・生徒に課題を配付 ○ 動画教材を作成 → 児童・生徒はオンデマンドで視聴 ○ 双方向型の授業の実施 ○ 児童・生徒から課題の提出

個別に最適化された方法で学ぶ

○自分に最適化された方法で学ぶ ○修得主義

違う場所で違うペースで学ぶ

○自分のペースで学ぶ



同じ場所で 同じペースで学ぶ

○教師の説明を聞いて学ぶ
○履修主義



長期休業による 授業の変化

○ICTの活用による学びの継続
○「学校ならではの学び」の再認識
・家庭で学べること
・学校でしか学べないこと
・教師の役割



自ら問いを立て 答えを見いだす授業

○様々な人と協働し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成



学びの改革
越えていく
コロナ禍を

授業

答えに導く授業

○知識をどれだけ獲得したかを問う



ビフォー・コロナ

ウィズ・コロナ

アフター・コロナ

学力

習得する力

○知識・技能の習得

自律して学ぶ力

○自ら計画を立てて学ぶ力の涵養

探究する力

○学びに向かう力に支えられ、習得した知識・技能を基に思考・判断・表現し、新たな知を構築する力

学ぶ場

学校で学ぶ

○教室で学ぶ
○教師から子どもへの対面指導



家庭や地域で学ぶ

○家庭や地域と連携し学びを進める
○空き教室や社会教育施設等の活用



社会に開かれた学校で学ぶ

○家庭や地域と「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を再共有

